

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100043		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム富士宮 (1階、2階、3階)		
所在地	静岡県富士宮市佐折840		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ai.gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2292100043&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境を活かした取り組みを継続して、体調の維持管理と、楽しみと生きがいを感じられるケアを目標にしています。
 ○屋外への散歩を可能な限り制限無く安全に行えるように見守っています
 ○季節の行事や食事などの楽しみを、より多く取り入れていくようにしています
 ○「さりげない」ケアを実現できるように話し合い、改善に努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目前に富士の山が大迫力でせまり、神々しささえ感じられる場所に事業所はある。昔ながらの暮らしの中で地域の一人として受け入れられていて、事業所の防災訓練に参加してもらったり、散歩では馴染みの家に立ち寄りたりと、双方向の交流が深耕している。一般的なレクリエーションといわれるメニューよりも、当たり前に行っている日常の取り組みを大切にしている、食事の準備や洗濯物たたみなどの中で「楽しい」を創っていくことに重きを置いている。また、利用者が散歩途中で野蒜を摘んできて佃煮を作ってくれたり、職員が年越しそばを打ったり、皆で白菜漬を作ったり、自然豊かな中で生活する豊かさを利用者職員とで分かち合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼や各会議の時にスタッフ全員で理念を唱和し、理念に沿う介護を目指し、実践につなげています。	法人理念とともにホーム目標を実践している。さらに、法人のクレドの中で事業所が特に大切に考える2つの点について取り組みに加えたが、前者はすでに実践できていると管理者が考えているため、毎日の唱和は後者のみとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	文化祭などの地域の行事に参加させていただいています。また毎日の散歩のときに、地域の方々と話をしたりと繋がりを維持しています。	事業所のおまつりには地域の皆さんが銭太鼓を披露してくれたり、散歩で立ち寄った折にお茶を出してもらったりしている。職員も地域清掃や街道沿いの球根植えなどに利用者とともに参加していて、お互い困ったことがあれば声を掛け合える関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解を得る為、これからの課題とし、コミュニケーションをとれる場をもっと増やして理解していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの状況を知っていたき、アドバイスや意見を伺ってサービスの向上に努力しています。	家族、市や包括職員のほかに、地域の皆さんの参加も得て開催している。運営に進言することが自然に体制作られているため、具体的な改善提案をもらっている。また、「事業所のまつりに協力したい」との声も拳がっていて、積極的な関わりをもってもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で、相談や指導を頂いています。また災害時の対策なども相談、意見を頂いています。	行政には運営推進会議にも毎回参加してもらっていて、質問や相談に丁寧に対応してもらえ助かっている。事業所でもグループホーム部会に参加し、その中で研修講師の依頼を受けるなどの協力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や業務の中で、個々の様子を把握し、見守りの位置や対応の仕方を考え、拘束なく生活していただけるよう努めています。これからも学ぶ機会を作っていきたい。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、フィジカルロックや日中の施錠はしていない。管理者は「スピーチロックが気になることもある」とのことだが、「目線を合わせて相槌を打ちながらゆっくり会話する」という目標にしている、職員の向上がみられてきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々注意をしながら防止に努めています。入居者様が安心して生活できるよう、もっと学ぶ機会を増やしていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ理解出来ていない事が多いので、学ぶ機会を持ち、支援に繋げていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長とケアマネにて十分な説明を行い、理解・納得を図っています。入居後の疑問等にも話をする場を設け、理解を得ていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月手紙等で入居者様の様子をお伝えしたり、面会時に伺った要望や疑問もスタッフ間で情報共有し、対応をしています。	事業所のたよりは「さおり通信」と名付け、利用者一人ひとりに1枚ずつオリジナル制作で家族に届け喜ばれている。運営推進会議を参加してもらいやすいものにするという課題はあるものの、法人で年1回取り組む家族アンケートで要望を掴めていて、改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で話し合い、不安や疑問が無いよう努めています。意見を言うのが苦手なスタッフにも、個々に話せる場を作っていきたい。	管理者だけでなく、ユニットリーダーやケアマネジャーなどフォローアップをもつ者が数名いて、職員は愚痴を含め日常的に相談してくるという。また、管理者の気づきから声を掛け、個人面談をすることもある。ほかにも、法人全体で「スタッフ満足度アンケート」も年1回とって、意見を収束している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を目指しています。個々に自信を持って働けるよう努めていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議等でも、研修する機会を作り、ホーム・個々の課題となる研修を行っています。またそれを実践に移せるよう努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームとも協力し、勉強をする場を設けたり、他のGHへの交換研修を行い、色々な知識や方法を体験して刺激を受けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の声掛けを多くして要望を伺うように努めています。行動・言動を多く記録、赤羽根・スタッフ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主にホーム長、ケアマネがご家族と話し合い、ケアプランに反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族の希望に沿ってユニット会議で話し合い、ケアプランに繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとり一人ができる事を把握し、掃除・洗濯・食事の準備や片付け等を一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子を手紙や電話で報告し、情報を共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方に面会に来ていただいたり、外泊された時に通い慣れた美容室で散髪をされる等、関係の維持に努めています。	農家だった利用者が事業所の畑で収穫を楽しんだり、馴染みの美容室へ出掛ける人もいて、習慣や関係が続くよう支援している。以前事業所に勤務していた職員の家に散歩途中に立ち寄る利用者もいる。また、兄弟や知り合いなど、家族以外の訪問も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士と一緒にテレビを見たり、他の階へ遊びに行かれたりしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じた相談を受けたり支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とコミュニケーションを図り、意向や希望を把握し、ユニット会議等を通して意思を尊重できるように検討しています。	少なくとも3ヶ月に1度は状況把握ができるよう「気づきシート」を担当職員が定期作成している。体調、要望、変化などの気づきとともに、担当者会議で話し合いたい事柄などを記載していて、職員が利用者を見つめる力が養われる仕組みができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に入居までの生活歴(出身地、家族構成、仕事、趣味や好む事、思い出に残っているような事)を伺って参考にし、個別のケアに繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化される個々の能力や心身状態を常に把握するように努め、一人ひとりに合った役割や時間の過ごし方を心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一度行われるユニット会議での話し合いを設け、職員間で意見やアイデアを出し合い、ご本人がより良い生活を送れるような介護計画を作成、実践しています。	担当職員が各々の気づきシートを携えて話し合いに参加し、その内容を計画作成担当者がまとめていて、ケアマネジャーがプラン化している。また、気づきシートには「家族の要望」欄もあり、家族の意見も反映していることも確認した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を毎日記入し、生活の把握や気付きに努め、職員間での申し送り等での情報共有を計っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、ご本人が希望される買物外出、外食など、ニーズに対応出来るように取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の散歩を始め、文化祭や運動会、奉仕作業など、地域の方々の支援もあり、参加できる機会を増やすように努め、個々の能力に合わせて実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の往診や、入居前からのかかりつけ医への定期受診を、ご本人とご家族の意向を確認して支援しています。	協力医の訪問が月1回あり、事業所の看護師(ケアマネージャー兼務)とほぼ毎日電話のやりとりもあって、医療連携が充実している。また、医療情報の記録や保管について、見やすさなどについての見直しにも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の変化や気づきを介護職だけで判断するのではなく、看護師に報告して、個別に必要な治療が受けられるように対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネ、ホーム長が中心となって、病院側に普段の様子や状態を伝え、入退院時の説明に関わり、関係作りと情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変化や気づきの分析から、適切な時期にご本人やご家族様と相談し、意思の確認や方針を共有するように努めています。またホームで出来る事出来ない事の条件も説明しています。	契約時に家族には説明し、事業所の方針を理解してもらっている。家族と医療の協力が得られ、職員体制が整っているといった諸条件が揃った場合には、家族の要望を受け入れたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変をおこさないように注意しています。対応訓練は定期的には行っていません。ヒヤリハットの分析から、危険予知が出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、日勤帯・夜勤帯共に想定した訓練を実施、地域の方にも見学していただき、協力体制を理解いただいています。	夜間想定も含み、年2回おこなっていて、地域の皆さんにも参加してもらっている。また、職員と利用者も地域の防災訓練に参加している。今後は毎月1回程度おこなえるようにしていきたいと考えている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格等に合わせた声掛け、接し方に注意し、楽しくストレスの無い生活が送れるよう配慮している。	新入職員のオリエンテーションで「あなたはトイレに入るときドアは閉めますか」と必ず質問し、職員の意識づけをしている。また、プライバシーを損ねる行為を確認した場合は都度指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個人の日常生活での選択や希望を汲み取り、自己決定が可能になるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間が決まっていたり、部分的には全体のバランスを考慮した流れがあります。それ以外は出来るだけ個々のペースに沿うよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容などで毛染めやパーマをかける等、希望に沿ったお洒落ができるように対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の配膳や片付けは、役割を分担して自分の仕事と認識して、楽しみながら行っています。おやつ作りも楽しんで関わっていただいています。	毎日のメニューは事前に決まったものがあるが、ホットプレートをつかった焼きそばやお好み焼きなど参加型の食事にも時には提供し、変化をつけ楽しんでいる。また、稲荷寿司やぼた餅といった昔ながらのものは利用者が中心となって作ることもある。	利用者の負担にはなっていないが、キッチンから食卓への動線の長さについて、ハード・ソフト両面での改善検討を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量はその都度記録して支援しています。その人に合わせた食事の形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを全員行っています。方法は個別に対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや回数などを把握し、トイレでの排泄が出来るよう、声掛け・介助を行って自立支援を目指しています。	排泄チェックに取り組み、リズムを把握できるようになったことで、失禁が減った利用者もいる。便秘気味の利用者には水分摂取量の調整と食事対策を順次施し、安易な薬使用は極力避けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認が3日以上になった時は、個別に合った方法(センナ茶、牛乳、下剤)マッサージなどを行い、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯はある程度制限されていますが、個々に楽しみながら入浴できるよう、方法や関わり方に配慮しています。	希望があれば毎日入浴することができる。苦手な人も週3日をめやすとしていて、清潔保持に努めている。浴室が広く、仲良し2人一緒に入ったり、好みの音楽を聴きながら趣味の時間としている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は適宜行い、夜間に寝付けない方には不安を取り除けるよう話をしたり、必要に応じて処方薬で対応するなど個別に援助しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルで薬の内容を把握しており、変更は記録や申し送りで情報共有して様子観察しています。必要に応じて看護師への報告・相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の活動では体操や散歩、外気浴、掃除や洗濯などの役割を持っていただくことを、個別に提供しています。また外食や外出での気分転換も実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出を楽しみにされているようなので、好きな物を食べていただいたり、買物にも出掛けしています。ご家族との外出や外泊も、協力して機会を増やしていきたいと思えます。	天候と体調がよければ10時頃から散歩に出掛けることが習慣になっていて、散策途中に山菜や花を摘んだり、馴染みの家々に立ち寄りしている。また、自然豊かな地域性を活かし、春は花見、秋は紅葉狩りにも出掛け、ドライブも月1回程度おこなっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で管理していますが、希望によりお預りしているお小遣いを使って買物をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年をご本人から家族へ年賀状を出すように作成しています。また希望によってご家族様へ電話をかけることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓や清掃は勿論、毎月新しく撮影した写真を廊下やホールに飾って、生活観や季節感があるように工夫しています。	利用者が散歩に出掛けるタイミングで換気をしていて、加湿器ならびに温・湿度計の設置もあり、快適な環境づくりに努めている。利用者が自宅から持ち込んだサボテンを皆で育てていて、日頃の和やかな関わりが覗えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士で近くなるように席の配置を考慮しています。人付き合いが苦手な方は、スタッフが仲介して不安なく生活できるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅にある使い慣れた家具をお持ちいただくようお願いしています。花や人形、写真を持ってきて飾っています。	大変広い空間にテレビやテーブル、ソファなど馴染みの家具を持ち込んでいる。鉢植えの植物もよく育っていて、採光のよさも覗えた。思い出の写真やアクティビティの作品なども飾られ、ここでの生活を楽しむ様子を視認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室の目印や各居室に表札をつけて、安全に配慮し自立して生活できるように考えて対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や朝礼で理念を唱和している。現場で実践できるよう努力しています。	法人理念とともにホーム目標を実践している。さらに、法人のクレドの中で事業所が特に大切に考える2つの点について取り組みに加えたが、前者はすでに実践できていると管理者が考えているため、毎日の唱和は後者のみとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近隣の住民の方と交流しています。	事業所のおまつりには地域の皆さんが銭太鼓を披露してくれたり、散歩で立ち寄った折にお茶を出してもらったりしている。職員も地域清掃や街道沿いの球根植えなどに利用者とともに参加していて、お互い困ったことがあれば声を掛け合える関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化祭に出展したり、その際にパンフレットを設置するなど発信はしているが、相談を受けたり幅広いアピールがもっと必要だと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のご家族様、行政、住民の方々が参加して意見や要望を述べていただき、それをスタッフ間で共有して向上に活かしている。	家族、市や包括職員のほかに、地域の皆さんの参加も得て開催している。運営に進言することが自然に体制作られているため、具体的な改善提案をもらっている。また、「事業所のまつりに協力したい」との声も挙がっていて、積極的な関わりをもってもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主には運営推進会議で、活動を伝えて関係を築くようにしている。	行政には運営推進会議にも毎回参加してもらっていて、質問や相談に丁寧に対応してもらえ助かっている。事業所でもグループホーム部会に参加し、その中で研修講師の依頼を受けるなどの協力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を理解し、行ってはいけないことを認識して取り組んでいる。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、フィジカルロックや日中の施錠はしていない。管理者は「スピーチロックが気になることもある」とのことだが、「目線を合わせて相槌を打ちながらゆっくり会話する」という目標にしている、職員の向上がみられてきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながるような行為を防止する意識は持っている。法についてスタッフが学ぶ機会を持ちたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフも制度や事業について学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はホーム長が家族へ説明を行っています。ケアについてはスタッフもその都度質問を受け、対応することがあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを定期的実施し、その結果を運営に反映して改善しています。	事業所のたよりは「さおり通信」と名付け、利用者一人ひとりに1枚ずつオリジナル制作で家族に届け喜ばれている。運営推進会議を参加してもらいやすいものにするという課題はあるものの、法人で年1回取り組む家族アンケートで要望を掴めていて、改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の業務の中で、職員が意見や提案をする場があります。	管理者だけでなく、ユニットリーダーやケアマネージャーなどフォローアップをもつ者が数名いて、職員は愚痴を含め日常的に相談してくるという。また、管理者の気づきから声を掛け、個人面談をすることもある。ほかにも、法人全体で「スタッフ満足度アンケート」も年1回とって、意見を収束している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフアンケートを定期的実施して、個別に話し合う機会を設けています。状況に応じて面談も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個別に社内・社外の研修に参加し、スキルアップや意識の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会を中心とした交流と、社内でのスタッフ間交流・研修や事例研究の発表などの取り組みをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活していただけるよう、よく話を聴き、表情や行動等を細かく観察しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前からご家族の要望を確認するようにしています。また面会時にはこちらから話す機会を作り、相談しやすいよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんなことが一番困っているか、どんなサービスを望んでいるかを確認し、ご家族と相談して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者様からアドバイスしていただいたり、時には励ましていただいたりする関係作りを意識しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの情報を大事にし、共同生活をする関係としてスタッフが関係作りを意識するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係はある程度継続されていますが、場所については個々に差があるので、もっと努力していきたい。	農家だった利用者が事業所の畑で収穫を楽しんだり、馴染みの美容室へ出掛ける人もいて、習慣や関係が続くよう支援している。以前事業所に勤務していた職員の家に散歩途中に立ち寄る利用者もいる。また、兄弟や知り合いなど、家族以外の訪問も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの相性を十分に考慮して、利用者同士が関わりあえるように環境を整えています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば、必要に応じて可能な支援を継続することを、ご家族や異動先のスタッフへ伝えていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望については常時ご本人に伺い、把握に努めていますが、完全に意向に沿うまでは至っていません。困難な場合は出来るだけ本人本位であるよう検討しています。	少なくとも3ヶ月に1度は状況把握ができるよう「気づきシート」を担当職員が定期作成している。体調、要望、変化などの気づきとともに、担当者会議で話し合いたい事柄などを記載していて、職員が利用者を見つめる力が養われる仕組みができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去のデータやご家族からの情報を受けて、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録をとり、ご本印様の現状について把握するように努めている。声掛けを行い、心身状態、変化にも気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りで情報を共有し、尚且つ月に一度、担当者会議を行い、意見やアイデアを出しながら、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員が各々の気づきシートを携えて話し合いに参加し、その内容を計画作成担当者がまとめていて、ケアマネージャーがプラン化している。また、気づきシートには「家族の要望」欄もあり、家族の意見も反映していることも確認した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきについては、毎日個別に記録をとっている。ケアの実践・結果についても、ケアプランに基づいたケアを実践し、結果を見直し、今後の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の現状を心身共に常に把握し、ご家族様の状況も踏まえて、その時々ニーズに対応するよう努め、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内で可能な対応が殆どで、地域資源を活かした支援はこれからの課題です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の意向に沿って、提携医と以前からのかかりつけ医と連携できるよう支援しています。	協力医の訪問が月1回あり、事業所の看護師(ケアマネージャー兼務)とほぼ毎日電話のやりとりもあって、医療連携が充実している。また、医療情報の記録や保管について、見やすさなどについての見直しにも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気付きは日常的に看護スタッフへ報告・相談し、受診や経過観察を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換は出来るだけ密に行い、様子の変化や対応を早期に把握できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を説明しています。また必要に応じて随時意思確認を行っています。	契約時に家族には説明し、事業所の方針を理解してもらっている。家族と医療の協力が得られ、職員体制が整っているといった諸条件が揃った場合には、家族の要望を受け入れたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、基本的な対応は理解しています。今後は実践力を身に付けるよう、定期的な訓練を実施していきたいと思えます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っていますが、状況に応じた、より実践的な計画と訓練の実施を行うと共に、地域との連携を強化していきたいと思えます。	夜間想定も含み、年2回おこなっていて、地域の皆さんにも参加してもらっている。また、職員と利用者も地域の防災訓練に参加している。今後は毎月1回程度おこなえるようにしていきたいと考えている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧語、尊敬語の使用を心掛け、相手を尊重した対応をしています。またプライバシーにも充分配慮し、かける言葉にも注意しています。	新入職員のオリエンテーションで「あなたはトイレに入るときドアは閉めますか」と必ず質問し、職員の意識づけをしている。また、プライバシーを損ねる行為を確認した場合は都度指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聴き出したり自己決定できる場面は意識して作り出しています。要望を実現する機会をもっと増やして行きたいと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意識はしていますが、部分的に業務中心になっていることがあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の能力やADLの状態に合わせて、おしゃれや整容の支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けなど、個別に出来る役割を行っていただくよう促しています。食事が楽しくなるよう、更に工夫をしていきたいです。	毎日のメニューは事前に決まったものがあるが、ホットプレートをつかった焼きそばやお好み焼きなど参加型の食事も時には提供し、変化をつけ楽しんでいる。また、稲荷寿司やぼた餅といった昔ながらのものは利用者が中心となって作ることもある。	利用者の負担にはなっていないが、キッチンから食卓への動線の長さについて、ハード・ソフト両面での改善検討を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量とバランス、水分量は毎日チェックして、個別に必要な支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に工夫して口腔ケアを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへ誘導するタイミングや介助方法を個別に工夫し、可能な限りトイレでの排泄を行うよう取り組んでいます。	排泄チェックに取り組み、リズムを把握できるようになったことで、失禁が減った利用者もいる。便秘気味の利用者には水分摂取量の調整と食事対策を順次施し、安易な薬使用は極力避けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや蜂蜜を使用したり、水分摂取量の調整、運動や腹部のマッサージを行うなど、自然排便が出来るよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴していただけるよう、個別に誘導の仕方を変えて対応しています。	希望があれば毎日入浴することができる。苦手な人も週3日をめやすとしていて、清潔保持に努めている。浴室が広く、仲良し2人一緒に入ったり、好みの音楽を聴きながら趣味の時間としている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度、音、光の調整、日中の適度な運動など、一日を通してのリズム作りを中心に取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はある程度把握できていますが、副作用の細かな把握は課題があります。変化の観察、確認は意識して行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの観察、分析で実施していることはありますが、更に深く可能性を見出すような取り組みはこれからです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には屋外散歩は要望に応じて、あるいは促して実施しています。家族や地域住民との協力関係は、これからの課題。	天候と体調がよければ10時頃から散歩に出掛けることが習慣になっていて、散策途中に山菜や花を摘んだり、馴染みの家々に立ち寄りしている。また、自然豊かな地域性を活かし、春は花見、秋は紅葉狩りにも出掛け、ドライブも月1回程度おこなっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所金庫内に保管しており、必要時にはご本人様も使えるように取り組んでいます。買物に出かけた際には小遣いを使えるようにしていきたいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限はしていませんが、電話や手紙が出来るような促しは殆ど行われていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居心地の良い雰囲気になるよう常に心掛けています。季節感をもっと取り入れて、大人の生活する為の空間として工夫していきたいと思います。	利用者が散歩に出掛けるタイミングで換気をしていて、加湿器ならびに温・湿度計の設置もあり、快適な環境づくりに努めている。利用者が自宅から持ち込んだサボテンを皆で育てていて、日頃の和やかな関わりが覗えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席だけではなく、他の場所でも椅子を配置して、快適に過ごせる空間作りを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ってきていただくよう相談しています。	大変広い空間にテレビやテーブル、ソファなど馴染みの家具を持ち込んでいる。鉢植えの植物もよく育っていて、採光のよさも覗えた。思い出の写真やアクティビティの作品なども飾られ、ここでの生活を楽しむ様子を視認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード的には難しい点もあるが、自立した生活につながる環境作りを心掛けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者、スタッフ共に地区の行事等に参加し、理解と交流を深めています。	法人理念とともにホーム目標を実践している。さらに、法人のクレドの中で事業所が特に大切に考える2つの点について取り組みに加えたが、前者はすでに実践できていると管理者が考えているため、毎日の唱和は後者のみとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方には挨拶をして、顔を憶えていただき、畑に入って手伝いなどを行っています。	事業所のおまつりには地域の皆さんが銭太鼓を披露してくれたり、散歩で立ち寄った折にお茶を出してもらったりしている。職員も地域清掃や街道沿いの球根植えなどに利用者とともに参加していて、お互い困ったことがあれば声を掛け合える関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方の出席をお願いして、活動の内容を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、ご家族様、入居者様に参加していただき、日々の生活の様子を伝えたり、皆様からの意見をいただくことで、サービスの向上に努めています。	家族、市や包括職員のほかに、地域の皆さんの参加も得て開催している。運営に進言することが自然に体制作られているため、具体的な改善提案をもらっている。また、「事業所のまつりに協力したい」との声も挙がっていて、積極的な関わりをもってもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議が主な場ですが、活動内容を伝えるだけでなく、苦労していることや課題についても意見をいただき、協力関係を築くよう取り組んでいます。	行政には運営推進会議にも毎回参加してもらっていて、質問や相談に丁寧に対応してもらえ助かっている。事業所でもグループホーム部会に参加し、その中で研修講師の依頼を受けるなどの協力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はせず、いつでも自由に出入り出来ています。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、フィジカルロックや日中の施錠はしていない。管理者は「スピーチロックが気になることもある」とのことだが、「目線を合わせて相槌を打ちながらゆっくり会話する」という目標にしていて、職員の向上がみられてきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では勿論防止を徹底しています。あらゆる変化に気を配り、見過ごすことがないように注意していきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少ないので、必要な知識として研修等で取り組めるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はホーム長が担当しています。ご家族様とホーム側、お互いに不安や疑問点が残らないよう、十分に話し合っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価やご家族様アンケートを実施する中で、普段面会時には言い難いことも意見できる機会があり、その意見を元に改善計画を建てて実施しています。	事業所のたよりは「さおり通信」と名付け、利用者一人ひとりに1枚ずつオリジナル制作で家族に届け喜ばれている。運営推進会議を参加してもらいやすいものにするという課題はあるものの、法人で年1回取り組む家族アンケートで要望を掴めていて、改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や会議、あるいはスタッフアンケートにて意見や提案をする機会を設けています。	管理者だけでなく、ユニットリーダーやケアマネージャーなどフォローアップをもつ者が数名いて、職員は愚痴を含め日常的に相談してくるという。また、管理者の気づきから声を掛け、個人面談をすることもある。ほかにも、法人全体で「スタッフ満足度アンケート」も年1回とって、意見を収束している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は一定の基準で定めていますが、労働時間ややりがいについては、個別の条件を話し合って決めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修、外部研修にも出来るだけ参加するようにしています。また資格取得をサポートする仕組みも活用しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GHの部会活動にて、交流や研修の企画、交換研修等の取り組みを実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と会話する機会を多く持ち、また表情や様子から気持ちを察して、出来る限り不安を取り除けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、関係作りは意識しています。何に困っているか、どんなケアを望まれるかは、介護計画の中心になる部分なので、必ず聴きとっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんなことが一番困っているか、どんなサービスを望んでいるかを確認し、ご家族と相談して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の意識がまだ残っている部分がありますが、支え合う関係も徐々に築きつつあると感じます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子をお伝えしながら、ご家族でなければ出来ないことや、ご本人様を支える協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方、友人や知人の方が面会に見える機会は少ないです。もっとホームに足を運んでいただけるようにしていきたいです。	農家だった利用者が事業所の畑で収穫を楽しんだり、馴染みの美容室へ出掛ける人もいて、習慣や関係が続くよう支援している。以前事業所に勤務していた職員の家に散歩途中に立ち寄る利用者もいる。また、兄弟や知り合いなど、家族以外の訪問も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いは、概ね出来ていると思います。もっと支え合いができるよう、場面を増やしていきたいです。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があった場合には、応えるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の気持ちや、どの様な希望を持っているのかを観察して汲み取るように努め、会議にて話し合いをしています。	少なくとも3ヶ月に1度は状況把握ができるよう「気づきシート」を担当職員が定期作成している。体調、要望、変化などの気づきとともに、担当者会議で話し合いたい事柄などを記載していて、職員が利用者を見つめる力が養われる仕組みができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時の確認と、入居時にご家族様から情報をいただくこと、面会時の会話も大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りにて変化を把握して、出来る事出来ない事を見極めるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の希望とご本人様の気持ちを中心に、より良く生活できる方法を話し合っ計画を立てています。	担当職員が各々の気づきシートを携えて話し合いに参加し、その内容を計画作成担当者がまとめていて、ケアマネージャーがプラン化している。また、気づきシートには「家族の要望」欄もあり、家族の意見も反映していることも確認した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入して日々の変化を把握、それをスタッフ間で共有して、実践と見直しを行うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のサービスが提供できるように心掛けて取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然に恵まれた環境を活かして、散歩や畑仕事、収穫から調理して召し上がる喜びまでを、楽しみながら出来るようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師と提携医による日常的な健康管理と、かかりつけ医と関係を保ちながら、必要な医療が受けられるように対応しています。	協力医の訪問が月1回あり、事業所の看護師(ケアマネージャー兼務)とほぼ毎日電話のやりとりもあって、医療連携が充実している。また、医療情報の記録や保管について、見やすさなどについての見直しにも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に日常的なデータを伝えて、体調変化などがあれば相談し、必要な受診ができるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の提供や相談が密に行えるよう、関係作りを意識して対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針については、入居時よりご家族と話し合っています。地域の関係者への協力要請は今後の課題です。	契約時に家族には説明し、事業所の方針を理解してもらっている。家族と医療の協力が得られ、職員体制が整っているといった諸条件が揃った場合には、家族の要望を受け入れたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応はマニュアルに沿って実施できるよう、身に付ける努力をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災訓練への参加、又はホーム出の防災訓練を定期的に行っています。	夜間想定も含み、年2回おこなっていて、地域の皆さんにも参加してもらっている。また、職員と利用者も地域の防災訓練に参加している。今後は毎月1回程度おこなえるようにしていきたいと考えている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別のケアを考え、その人に合わせた言葉掛けを行っています。	新入職員のオリエンテーションで「あなたはトイレに入るときドアは閉めますか」と必ず質問し、職員の意識づけをしている。また、プライバシーを損ねる行為を確認した場合は都度指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺ったり汲み取る努力を日常的に行い、自己実現できる機会を増やすよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に生活のペースを保てるよう、押し付けにならないケアを心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	足りない衣類は相談しながら補充し、好みに合わせた身だしなみができるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理や準備から配膳、片付けなど、できることを一緒に行って、楽しみとして関わられるように考えています。	毎日のメニューは事前に決まったものがあるが、ホットプレートをつかった焼きそばやお好み焼きなど参加型の食事も時には提供し、変化をつけ楽しんでいる。また、稲荷寿司やぼた餅といった昔ながらのものは利用者が中心となって作ることもある。	利用者の負担にはなっていないが、キッチンから食卓への動線の長さについて、ハード・ソフト両面での改善検討を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事の摂取量は常に確認して、個別の方法で必要な分量を接種できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別の方法で口腔ケアを行い、必要に応じて介助と確認を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	殆どの方が自立していますが、必要に応じて誘導や確認をしています。	排泄チェックに取り組み、リズムを把握できるようになったことで、失禁が減った利用者もいる。便秘気味の利用者には水分摂取量の調整と食事対策を順次施し、安易な薬使用は極力避けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて、体操や散歩など適度な運動を行い、牛乳の摂取等による自然排便を基本に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を促すタイミングに配慮し、ご本人の体調や要求によって入浴を支援しています。	希望があれば毎日入浴することができる。苦手な人も週3日をめやすとしていて、清潔保持に努めている。浴室が広く、仲良し2人一緒に入ったり、好みの音楽を聴きながら趣味の時間としている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は様子によって休んでいただいています。就寝前の環境整備と、巡回時にも状態を確認して安眠できるようフォローしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の効果は把握しており、変化の確認は個別にチェック表を使用して行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴と現在の能力、好み等から、楽しみがある生活を提供できるよう、日々努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望により屋外へ出掛けられる体制はとっています。ご家族との外出も希望があれば実施しています。	天候と体調がよければ10時頃から散歩に出掛けることが習慣になっていて、散策途中に山菜や花を摘んだり、馴染みの家々に立ち寄りしている。また、自然豊かな地域性を活かし、春は花見、秋は紅葉狩りにも出掛け、ドライブも月1回程度おこなっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて管理していますが、必要に応じて使えるようになっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は各階にあるものを使うことができます。手紙のやり取りも制限はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の様子を写真で撮って飾って、それを見て話したりしています。過ごしやすいように温度などを調整しています。	利用者が散歩に出掛けるタイミングで換気をしていて、加湿器ならびに温・湿度計の設置もあり、快適な環境づくりに努めている。利用者が自宅から持ち込んだサボテンを皆で育てていて、日頃の和やかな関わりが覗えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルをリビング以外にも設置し、居場所を設けて、思い思いに過ごせるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地が良くなるよう、家での生活環境に近付けるよう、馴染みの物をお持ちいただくようお願いしています。	大変広い空間にテレビやテーブル、ソファなど馴染みの家具を持ち込んでいる。鉢植えの植物もよく育っていて、採光のよさも覗えた。思い出の写真やアクティビティの作品なども飾られ、ここでの生活を楽しむ様子を視認した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかる危険は回避できるよう、わからない危険は取り除くか介助するように考えています。		